

平成28年度学校経営計画

平成27年度～平成29年度

校番	12	学校名	広島県立福山葦陽高等学校	校長氏名	小林 泰崇	全(定)通	(本)分
----	----	-----	--------------	------	-------	-------	------

1 ミッション(地域社会における自校の使命)

備後の伝統校として地域から愛され、新しい時代をたくましく生き社会に貢献する人材を育成する。

2 ビジョン(使命の追求を通じて実現しようとする自校の将来像)

【目指す生徒像】多様化・グローバル化する社会を見つめ、将来そこで活躍する自分を思い描き、実現に向けて努力できる生徒

【自校の将来像】一人ひとりの生徒を、教育活動相互の関りと生徒相互の関りの中で育てる学校

- 1 「強く」自ら考え行動することで、人生を切り拓いていくことができる確かな学力を育成する
- 2 「正しく」自ら律し他者と協働することで、地域や社会に貢献していくことができる態度を育成する
- 3 「美しく」グローバル化する社会の中で、多様な人々とつながることができる姿勢を育成する

3 環境分析

入学者選抜志願生徒数の推移

年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
志願者数	41	55	36	41

本校を受検することにつながった要因(%)

	中学の先生	保護者	先輩	友達	オープンスクール	福山地区定通制進路相談会	その他
H26入学生	36	19	5	12	12	0	16
H27入学生	36	2	15	13	18	2	14
H28入学生	46	3	3	14	9	3	22

① 選抜志願生徒数は平成26年度は県立定時制課程では最高の志願倍率となったが、平成27年度は0.90倍となり志願者の減少を見た。しかし、平成28年度は1.01倍と戻した。

平成25年～平成28年の過去4年間では、志願倍率の平均は1.08倍であり、一定の評価を受けている学校である。

② 中学校訪問等、本校に関する周知活動を行っており、中学校の先生に勧められたことがきっかけで本校を受検した生徒が多い。

③ 三修制では、全日制と同じ期間で高校を卒業できることが生徒のモチベーションとなっている。また、四修制では、午前中の時間帯でゆっくりと基礎学力を身に付けることができ、午後の時間に就労経験を積むなどすることで、じっくりと社会性を養うことが評価されている。

④ クラブ活動を支援する環境を整えており、健全な高校生活を送ることができる。また、生涯学習や、良好な友人関係をつくれることも評価されている。(バドミントン部<部員4名>は平成24年度全国大会に出場した。また、バスケットボール同好会<部員8名>は、平成27年度春の県大会第2位、秋の種目別大会では優勝した。コミックアート部<部員4名>は文化祭等での出品を続けている。)

進路状況の推移(%)

進路状況	平成25年		平成26年		平成27年	
	三修制	四修制	三修制	四修制	三修制	四修制
進学	50	27	29	20	100	23
就職	40	73	57	80	0	77
一時的な就労等	10	0	14	0	0	0
未定	0	0	0	0	0	0

三修制選択者の学年に占める割合(%)

	平成25年	平成26年	平成27年
	53	14	16

⑤ 福山市の中心に位置しているため体育・文化施設が近接している。このことを生かし、校外施設や他の教育機関を利用して、生徒の視野を広げることができている。その結果、生徒が主体的に進路を実現している。

⑥ 卒業時には全員の進路が決定している。

⑦ 大学、専門学校への進学者も例年出ている。

⑧ 生徒指導を徹底することで、マナーが身につくなど健全な人間性が育成され、就職につながっている。

中途退学者数の推移

中途退学者数	平成25年	平成26年	平成27年
1年	13	14	14
2年	3	0	8
3年	2	0	2
4年	0	1	1
合計	18	15	25

就労率(%)

	平成25年	平成26年	平成27年
1年	60	60	62
2年	64	75	67
3年	70	83	74
4年	77	77	100
平均	63	74	76

⑨ 退学者数は減少傾向にあったが、27年度は増加に転じた。特に、一年次に偏っており、一年次の指導に課題がある。

⑩ 就労率は、増加している。学校と仕事との両立が図られている生徒も多いが、うまく両立できずにいる生徒も少なくない。生徒個々の実態に応じた計画的・継続的な指導や支援が必要である。

4 目標の設定

学校経営目標

達成目標	評価指標	実績値		目標値		担当部等
		平成27年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	
1 「強く」自ら考え行動することで、人生を切り拓いていくことができる確かな学力を育成する						
生徒の主体的な相互活動を促すことにより、基礎学力が定着し、それを活用する姿勢が育まれている	定期考査における基礎力定着問題の通過率上昇	国語 (1年次19% 2年次21%アップ) 数学 (1年次5%2年次7.1%ダウン), 外国語(1年次16%アップ 2年次24%アップ)	国語, 数学, 外国語各5% アップ(1学期 →3学期)	国語, 数学, 外国語各7% アップ(1学期 →3学期)	国語, 数学, 外国語各10% アップ(1学期 →3学期)	教務
	定期考査での活用問題の無答率	—	—	各教科40%以下	各教科35%以下	
	検定試験受験人数(のべ)	52	30	95	100	教務 進路指導
2 「正しく」自ら律し他者と協働することで、地域や社会に貢献していくことができる態度を育成する						
自己肯定感が高まり、社会性を身につけるとともに、勤労観・職業観を醸成し卒業年次の進路実現が図られている	「特別な指導」件数の中での再指導率(2回以上特別な指導を受けた生徒の割合)	19.4% (総数103件)	18%	16%	14%	生徒指導
	「挨拶向上実績度数」の中で「毎日挨拶をする」生徒の割合	65%	80%	85%	90%	
	月間遅刻数が1以下の生徒の数(年間11以下)	22	25	30	35	
	生徒アンケートによる生徒会行事満足度	86%	70%	90%	95%	保健美化
	卒業年次の進路実現率(%)	100%	100%	100%	100%	進路指導
3 「美しく」グローバル化する社会の中で、多様な人々とつながることができる姿勢を育成する						
地域に学ぶことを通し、社会的な視野を拡げ、他者と共生できる姿勢が身につけている	「体験的な学び」によって地域の特性を理解できた生徒の割合	—	—	65%	70%	教務 生徒指導
	校外清掃活動の参加率	56%	80%	65%	70%	保健美化

5 行動計画

学校経営目標

達成目標	本年度行動計画	中期行動計画	担当部等
1 「強く」 自ら考え行動することで、人生を切り拓いていくことができる確かな学力を育成する			
生徒の主体的な相互活動を促すことにより、基礎学力が定着し、それを活用する姿勢が育まれている	学び直しを行うと同時に、就職・進学それぞれのニーズに合わせた教材を作成する。	教職員は、基礎学力の定着を図り、就職・進学に対応できる学力を身につけさせる。 【基礎学力の定着】	教務
	各教科の単元ごとに、基礎・基本の定着を行うとともに、既習事項を活用する演習問題を取り入れる。	教職員は、生徒自ら課題を発見し、コミュニケーション能力が高まるとともに、知識を活用する姿勢が身につく授業を実践する。 【課題解決能力の育成】	
	国語、外国語、情報・商業検定を周知し、受検を勧める。受検希望の生徒には個別指導を行う。	授業への参画意識を高めることと、就職・進学への動機づけを行うことにより、諸検定(情報・英検、漢検等)を積極的に取得できる力を育成する。 【将来設計に基づく資格取得能力の育成】	教務 進路指導
2 「正しく」 自ら律し他者と協働することで、地域や社会に貢献していくことができる態度を育成する			
自己肯定感が高まり、社会性を身につけるとともに、勤労観・職業観を醸成し卒業年次の進路実現が図られている	社会性(挨拶、時間を守る、身だしなみ)を醸成するとともに、特別指導の対象者に生徒指導の三機能を取り入れて面談を行う。クラスごとに遅刻数の達成目標を立てる。	生徒指導の三機能を取り入れて生徒指導を充実させることで、自己肯定感と社会性を高める。 【自己成長する力の育成】	生徒指導
	生徒主体の生徒会活動を行い、多くの生徒が行事に参加する中で、自己と他者を尊重する態度を育成する。学校アンケートで行事の満足度を調査し、生徒会指導に反映する。	LHR、学校行事、生徒会行事の参画を通し、お互いに協力し合う集団を育成できている。 【社会や他者に貢献する人材の育成】	保健美化
	進路希望先の早期決定、実現を図る。在学中の就労についての指導に力を入れ、就労率の向上を図る。夏季指導の定着充実を図る。オープンキャンパス、学校説明会、企業見学への参加を促す。インターンシップを計画する。資格取得者の増加を図る。合格体験・就労体験発表会などを実施する。	低年次から進路意識を醸成することで、生徒の希望する進路が100%実現できている。 【進路を切り拓く力の育成】	進路指導
3 「美しく」 グローバル化する社会の中で、多様な人々とつながることができる姿勢を育成する			
地域に学ぶことを通し、社会的な視野を拡げ、他者と共生できる姿勢が身についている	外部講師を招いての講演会、地域の文化施設訪問等の「体験的な学び」を企画するとともに実施を通し、生徒の社会的な視野を拡げる。	企業や大学における地域の専門家との連携を図り、社会で活躍できる生徒を育成できている。 【地域社会への参画意識の醸成】	教務 生徒指導
	校外清掃等の実施を通し、生徒のボランティア活動への関心を高める。	全校生徒が主体的にボランティア活動に参加するようになっている。 【ボランティア活動を通した人間関係形成力の育成】	保健美化